

このファイルではカシミール3D用かぐやLALT地形図の使い方の一例を6つの手順に分けて説明します。

### 手順1

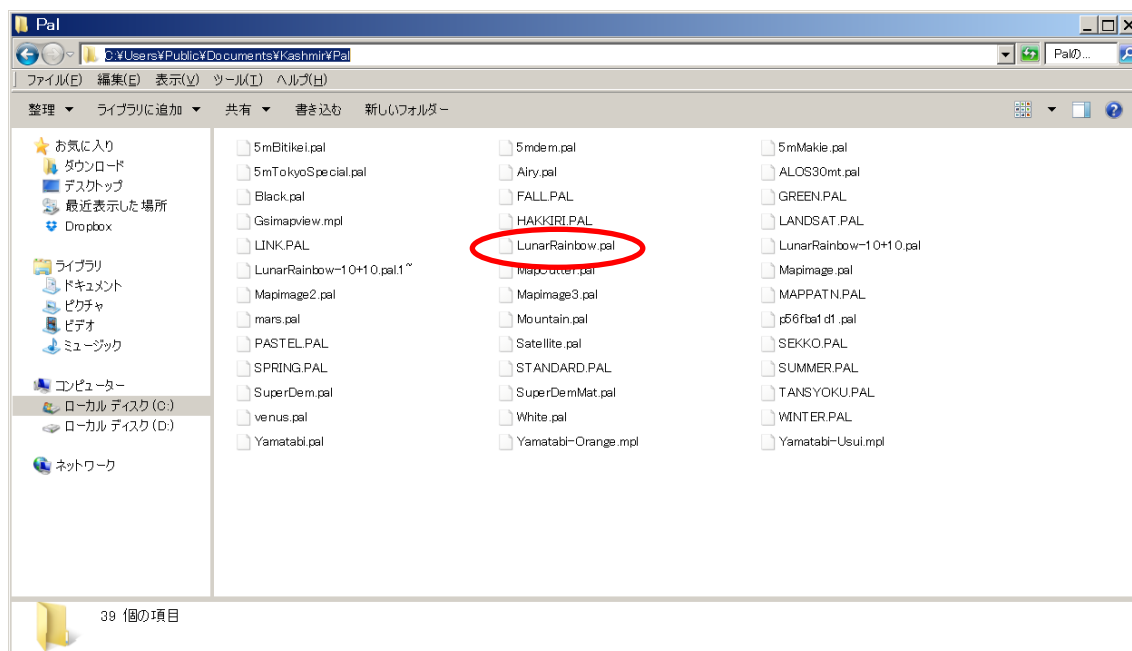
ダウンロードしたzipファイルを解凍すると地形データ(\*.bil)とヘッダーファイル(\*.hdr)の2つのファイルが出来ます。これらを任意の場所に置きます

### 手順2

ダウンロードした標高の色を表すためのカラーパレットファイルを、カシミール3Dのカラーパレットファイル置き場

`c:\Users\public\document\Kashmir\pal\`

の下に置きます。



### 手順3

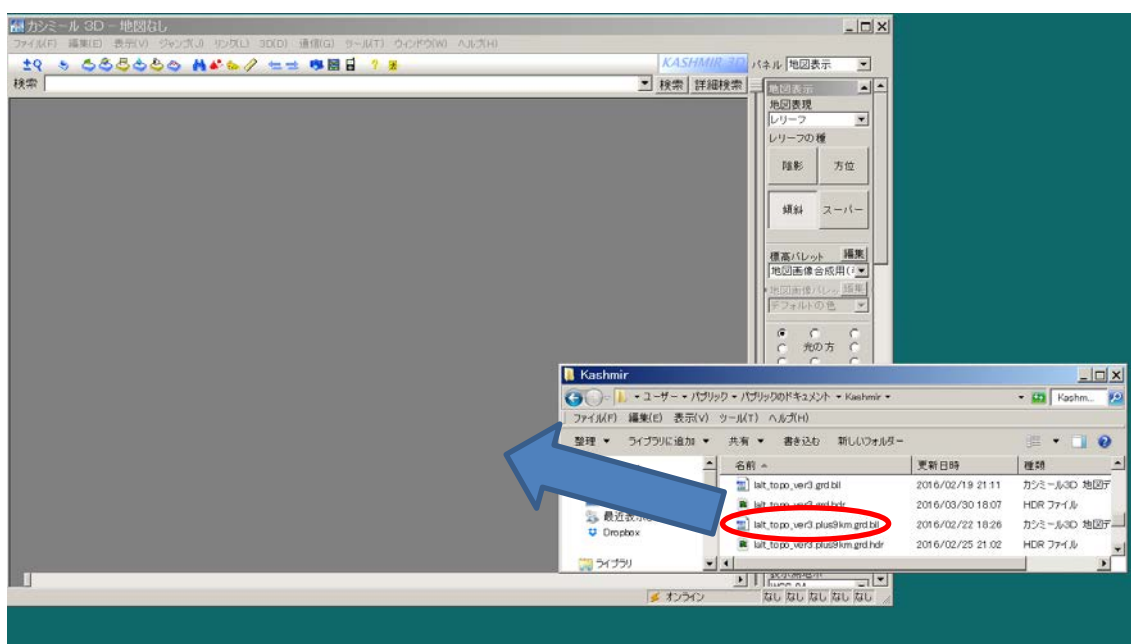
必要に応じて、ダウンロードした地名ファイルを任意の場所に置きます。

#### 手順4

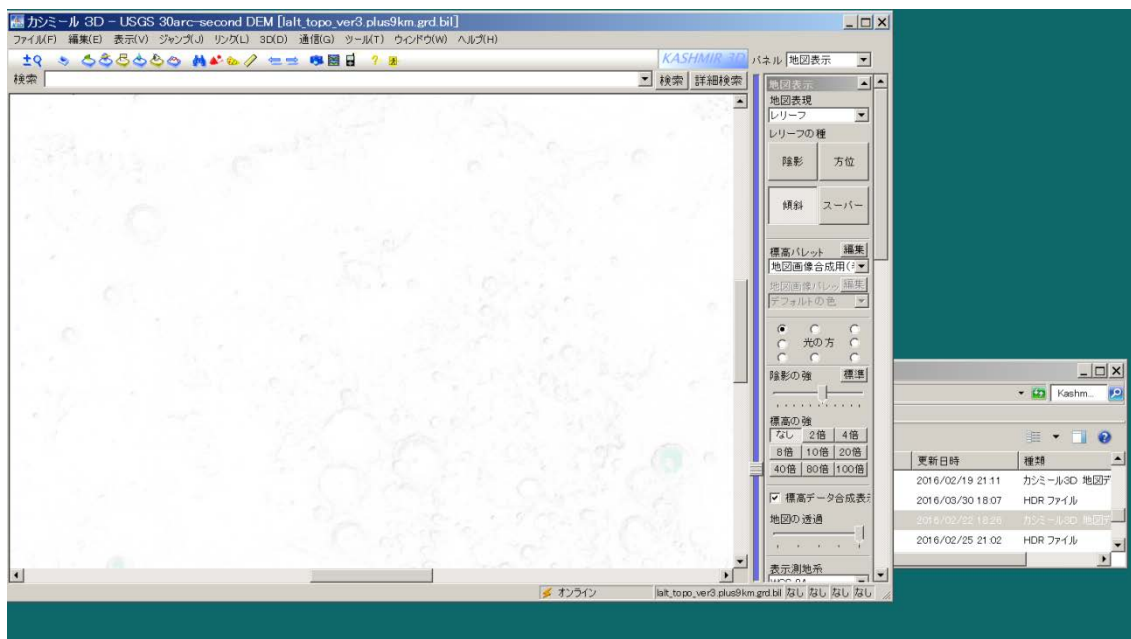
カシミール 3D から必要なデータを開きます

④-1 windows のエクスプローラーを用いて、\*.bil ファイルをカシミール 3D にマウスでドロップします。

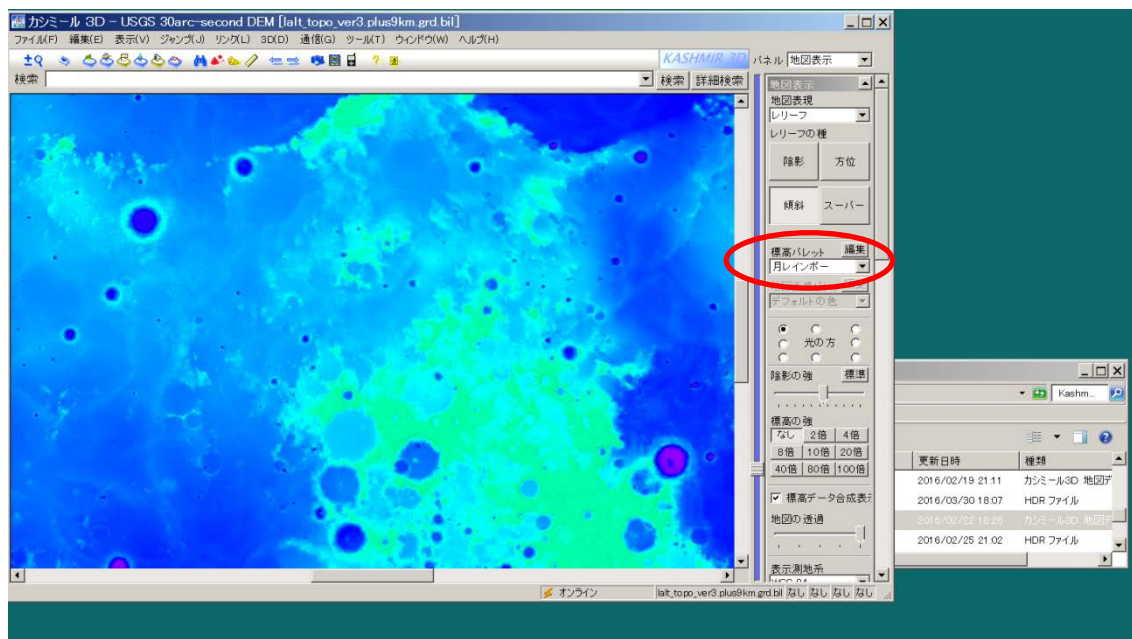
※二回目からはメニューの「ファイル」>「地図を開く」で、「過去に開いたファイル」から開くことができます。



→ファイルが開けました。

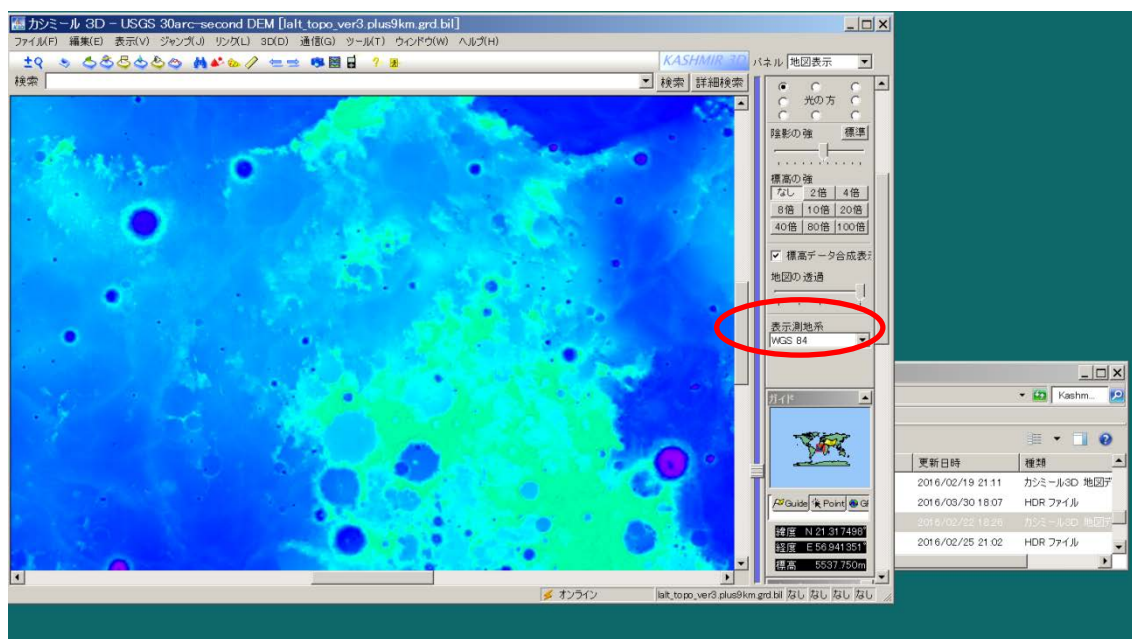


④-2 標高パレットを「月レインボー」に切り替えます。



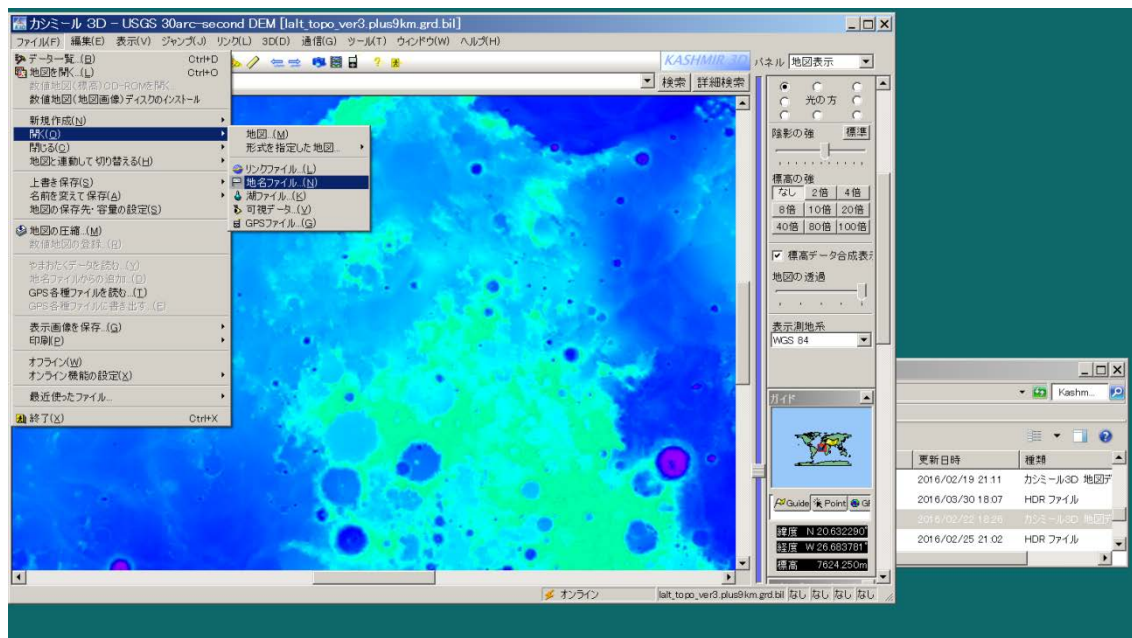
④-3. 測地系を「WGS84」に設定します。

※月の測地系をソフトで設定できないため、代わりに地球の測地系を使います。月半径が約 1740km、地球半径が約 6400 km ですので、表示されるスケールは約 3.7 倍になります。つまり、月面上で直径 100 km のクレータは約 370 km として表示されます。

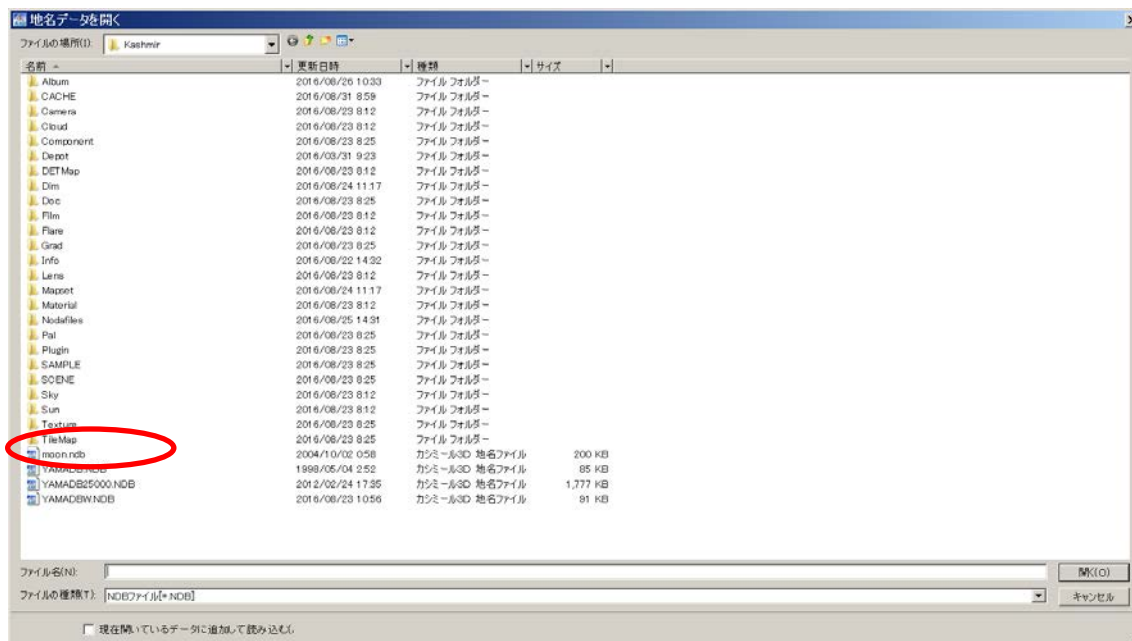


#### ④-4. 地名ファイルを開きます

手順③で任意の場所に置いた moon.nbd を選びましょう。メニューの「ファイル」>「開く」>「地名ファイル」から選択します。



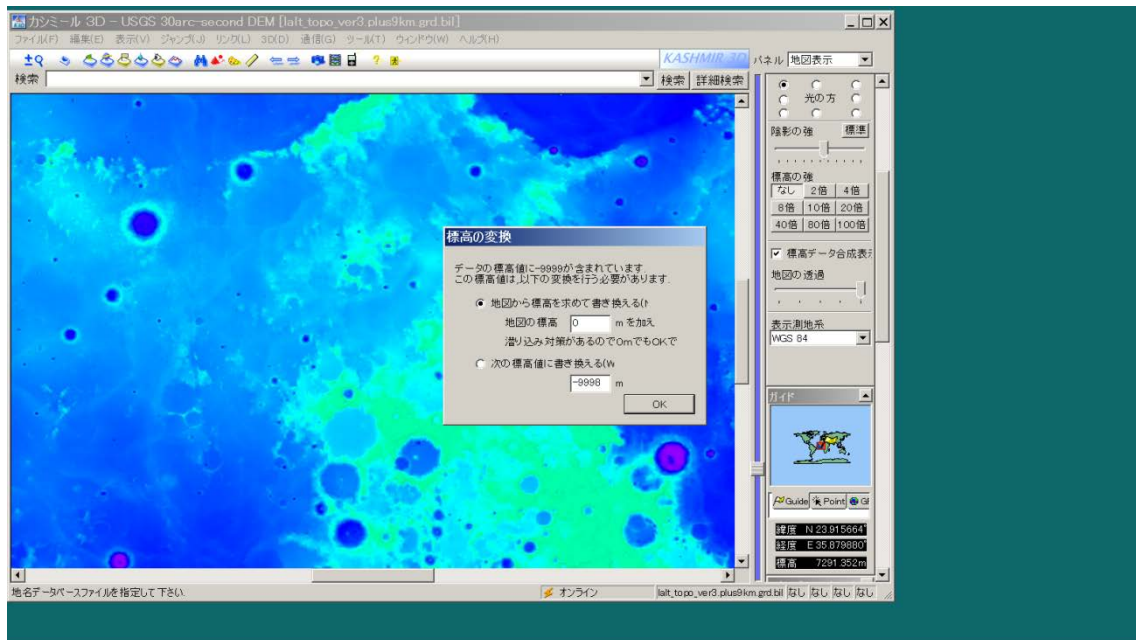
→





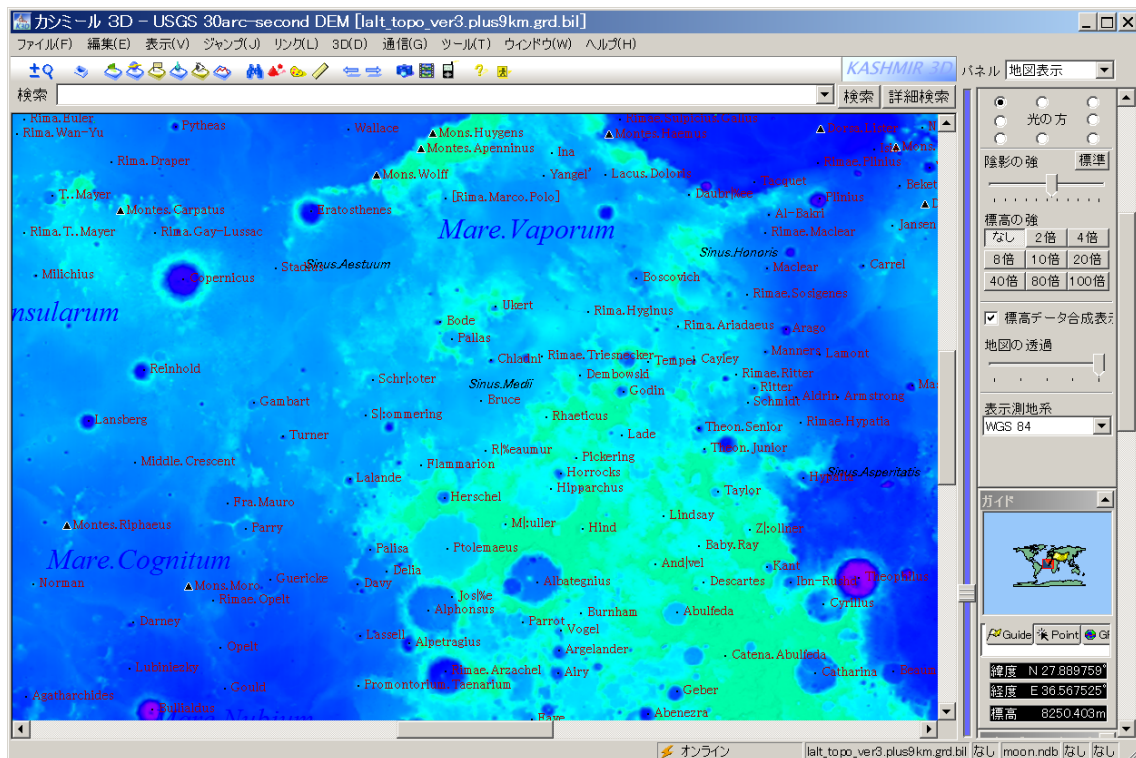
→

高度を置き換えるように言われるので、そのまま「OK」を押します



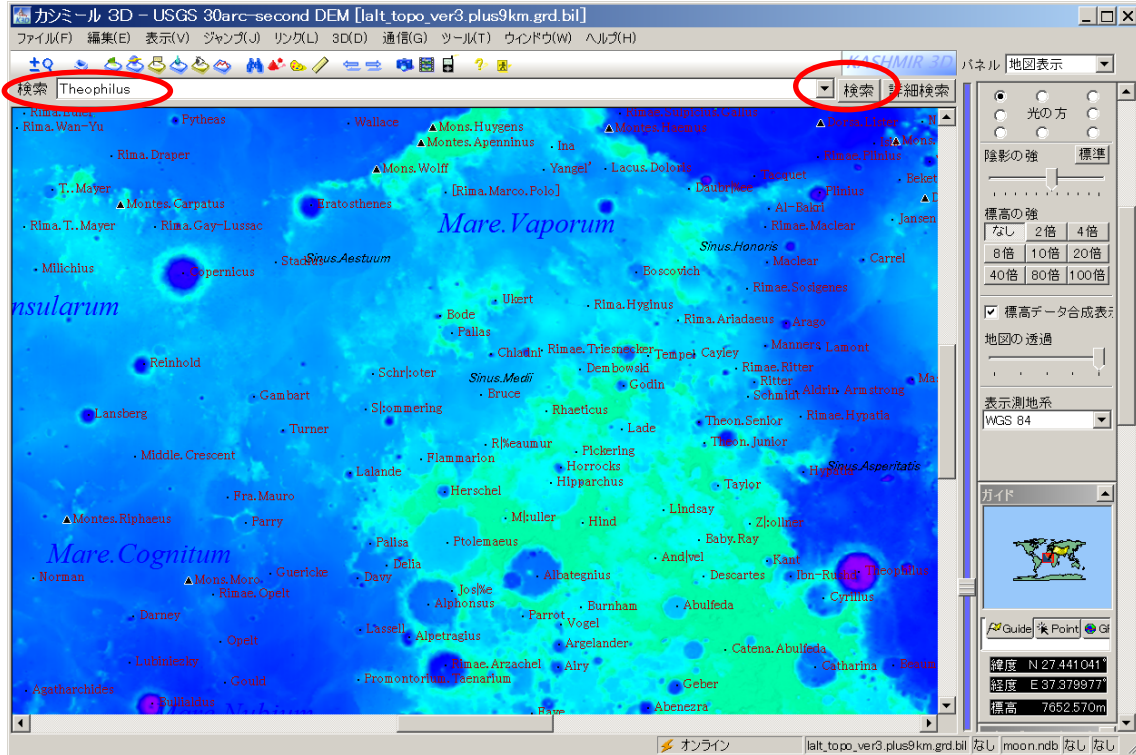
→

開けました

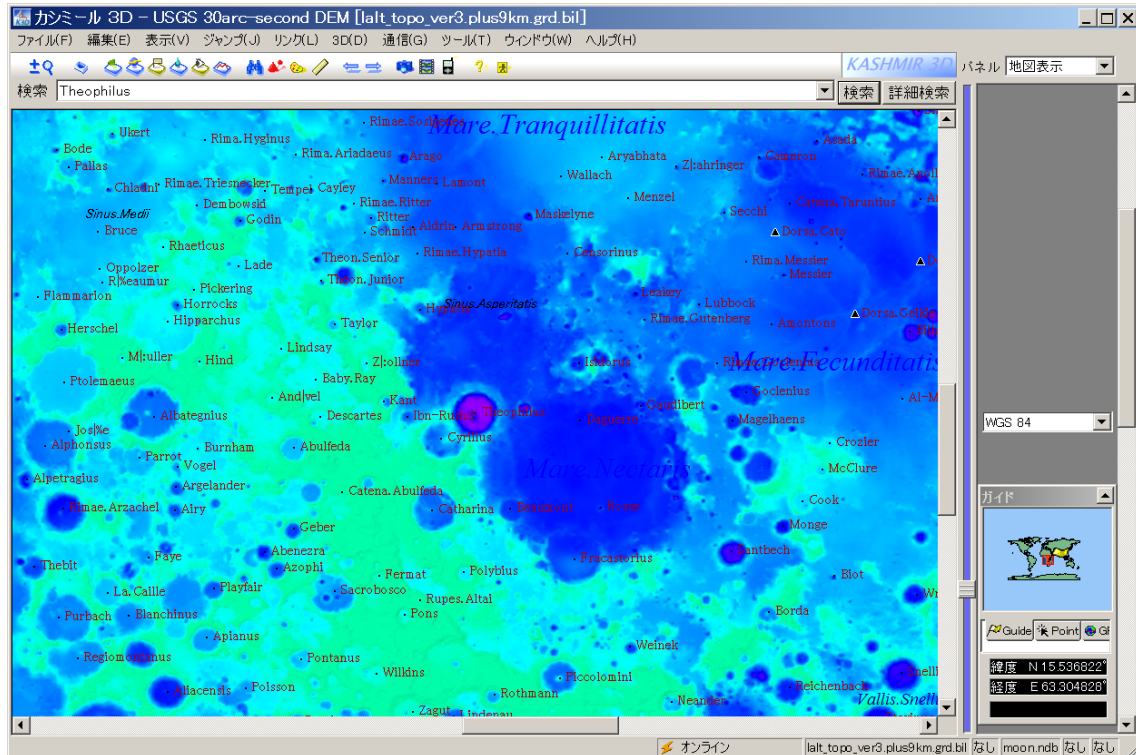


### 手順5

上の「検索」バーに名前を入れて検索ボタンを押すと、地名の検索ができます。例として、Theophilus（テオフィルス）クレータを探してみましょう。



→見つかりました。検索地点が中心になり、地名が点滅します。

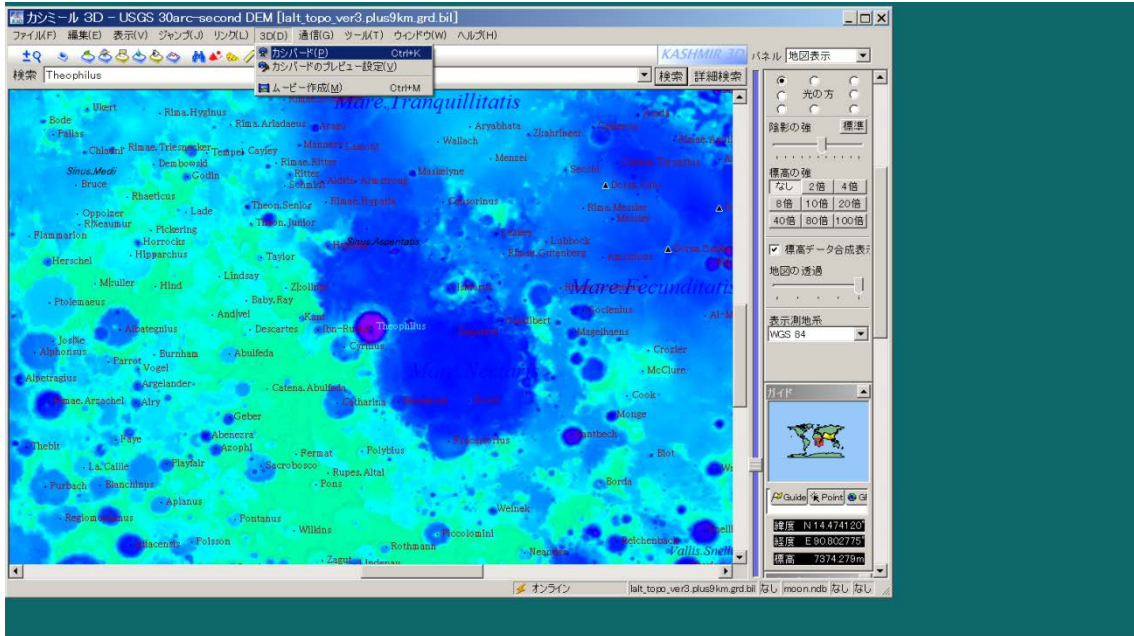




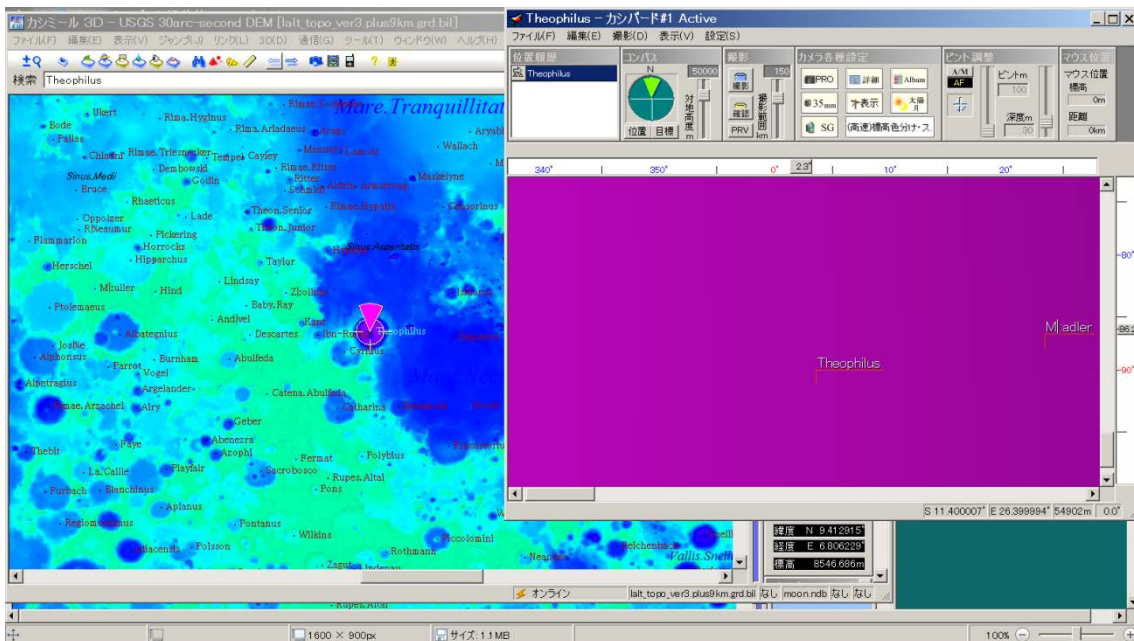
## 手順6

Theophilus クレータを見下ろす鳥瞰図をつくってみましょう

### ⑥-1 メニューの「3D」>「カシバード」からカシバードを起動します

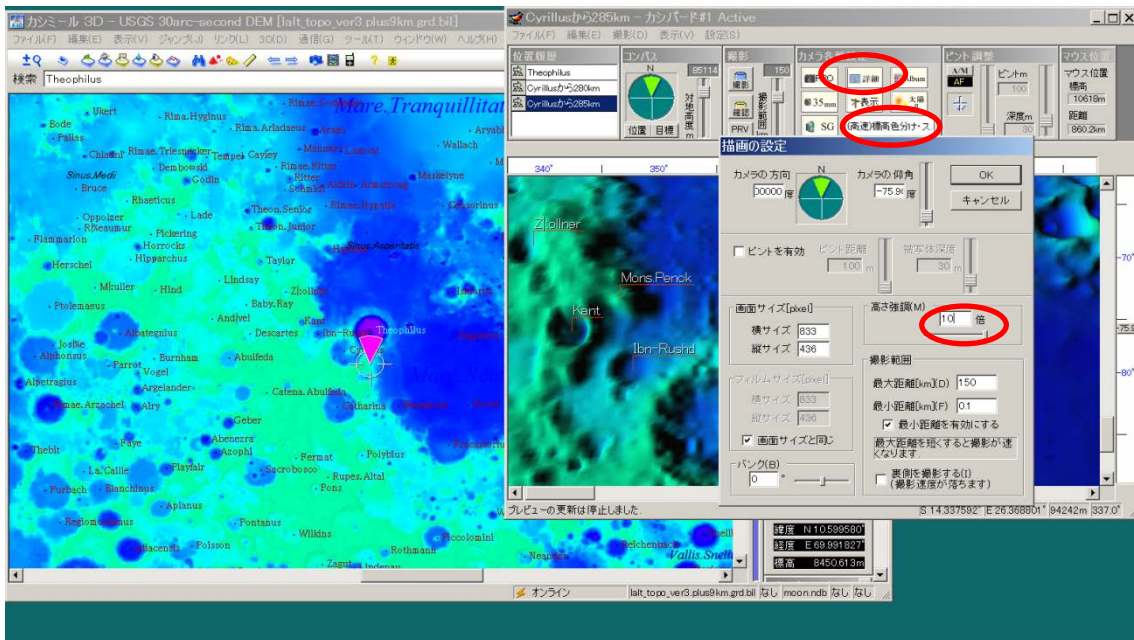


→視点を表すアイコンが地図上に現れ、カシバード（鳥瞰図）の窓が開きます。

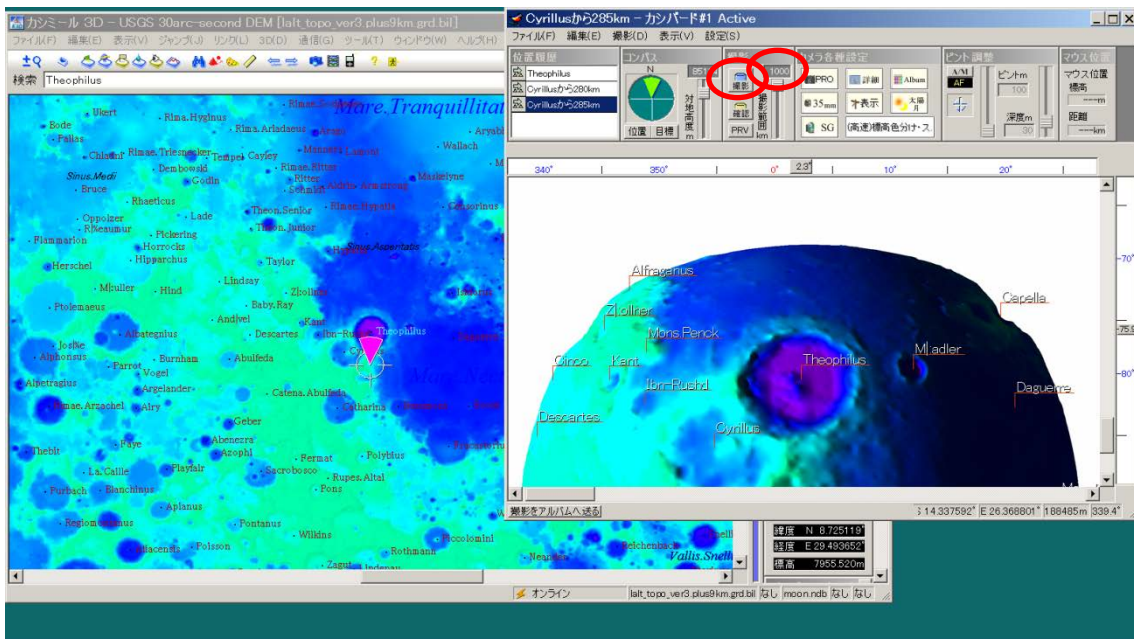


マウスを使って地図上で視点を動かしたり、カシバード画面のスクロールバーを使って仰角を下げたりして調整します。

また、「カメラ各種設定」の「詳細」を開いて地形を10倍に強調してみます。また、2段下の風景を選択します。ここでは「(高速) 標高色分け・スムーズ」を選んでいきます。



撮影範囲を 1000km に設定してからカシバード画面の「撮影」から鳥瞰図を撮影してみた結果です。撮影範囲が小さいと一部しか画面に出ないかもしれません。うまく調整してみてください。



一通りの手順は以上です。思ったように鳥瞰図が作れない時は、視点を移動したり、高度を変えたり、色々調整してみてください。お気に入りの図ができるといいですね。